

A 総務部長 空港シャトルバスは、成田空港の第2旅客ターミナルから、横芝屋形海岸までの間を、それぞれ1日12便運行しています。平成22年度が10万4千227人。月の平均で8千685人です。

市の基幹バスは、さんぶの森元気館から蓮沼海浜公園までの間を1日7便、土日祝日は1日6便という運行状況です。

昨年10月に実証実験運行を開始しております。今年の9月までの1年間ということになりますけれども、2万4千456人。月の平均ですと、2千38人になります。



小野崎正喜 議員

個人質問

専門的能力を持つ人材の育成を

● 行政について

Q 市長は、現在の山武市の行政運営を、縦割り組織という観点から、どのようにお考えなのかうかがいます。

A 市長 私どもの組織で受け持っておりますサービスは、大変多岐にわたっており、その性質上、縦割りにせざるを得ないと考えています。

市民の皆様方に大変御不便をおかけしたり、行政効率を悪くしているという御指摘をいただきましたので、常に問題意識を持って対応していきたいと考えています。

Q 同じ観点から、行政課題には、どのようなことがあると把握しているのかうかがいます。

A 市長 協力をしながらずっと効率的であろうというところに対し、自分のところの範囲を超えたくないという意識が働いているように思います。そこは行政改革上、大きな問題点として、感じています。私どもとしては、しっかりと勉強をみんなで行

っていききたいと考えてございます。

Q 副市長にお伺いしますが、財務省より山武市にいられて、どのように思われたか。また、副市長という立場から、行政運営で是正する点があると思えば、どのような点があるとお考えかうかがいます。

A 副市長 新しい仕事重になっていっていると感じており、幾つか要因があるのだろうと思います。是正をするような点があればとの御質問でしたが、職員が新しい仕事をするに当たって、積極的に取り組めるような職場環境を作っていくことと思えます。

Q 現在、各部各課・部内・課内のコミュニケーション＆コンセンサスはどのようになっていますのかうかがいます。

A 総務部長 市の中には、幹部職員会議、庁議があり、報告事項、決定事項をその場で確認・共有し、それを各部署、部内会議、課内会議、係

内の会議へと、情報を伝達しています。

また、人事評価の中の面談で、部の目標、課の目標、個人のそれぞれ掲げた目標を確認し合います。

Q 各部長、課長は、部内、課内において、目標を定めているのかうかがいます。

A 総務部長 年度当初に、部長等は部の課題を設定し、これを受けて課長等は課の組織目標を設定します。各職員もそれぞれの役割に応じた個人目標を設定しております。

Q 各課長間の連絡調整はどのような形でされているのかうかがいます。

A 総務部長 それぞれ関係部署で、連絡調整を日々行っています。決裁の過程においても、稟議、あるいはアイデアをいただくということ、それぞれ調整して、共通のコンセンサスを取得しています。政策やプロジェクトを組むときがあれば、それ

ぞれ関係部署から課長が集まって調整を図るという場面もございます。

Q 管理職の方々が、一般職員の将来に向けた人材育成をどのように行っているのかうかがいます。

A 総務部長 日々の仕事のなか、OJTとよく言われますけれども、業務の中で、職員指導に当たることが一番だと思います。

Q 今後予想される団塊世代の多くの職員の退職に対する対策、引き継ぎ、後継者の育成はどのようにされているのかうかがいます。

A 総務部長 計画的な職員採用を図っていくということが大事だと思います。職員の定員適性化計画を作り、計画的に職員採用も行っています。

Q 選抜教育の育成、専門教育の育成の取り組みを、今以上に充実していただきたい。また、経営、ファイナンス、マーケティング、情報システム等の専門的能力を持

つ人材の育成や雇用についても要望します。適正な人事評価が行われているか、その人事評価を議員に公開してみようか。

A 総務部長 今のところ公開は考えていません。

● 山武市の人口減少についてと企業誘致につ

Q 歳入歳出構造の悪化が、日に日に進んでおりますが市長は、現在の状況をどのように考えているのかうかがいます。

A 市長 これから先の地域の経営が、年を追うごとに、困難になっていくという現実を突きつけられていると考えています。

Q 現在、人口減少に

A 市長 山武市として、農村型の将来像を描いている。

は、農村型の将来像を描いている。

は、農村型の将来像を描いている。